

第3回学ぶ喜び・ESD連続公開講座 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2019年10月21日(月) 19時～20時30分
- ◇会場 奈良教育大学次世代教員養成センター2号館多目的ホール
- ◇参加者数 65名

「21世紀人間」とは

- ①「21世紀人間」誕生まで
- ②わたしのビジョン
- ・授業実践から(社会科「参院の微小
- ・日々の取組
- 個を育てる、集団を育てる、保護者と仲良く



1. 21世紀人間とは

(1)「21世紀人間」の誕生

10年前 学習指導要領の改訂に伴い小学校外国語活動が導入された

決して英語が得意なわけではなかったが、誰もが不安に思っている英語を得意になろうと思った
英会話教室へ通う、英語を教える資格をとろうと挑戦する

短期(夏休みの4週間)の語学留学(カナダへ)

- ・一切授業についていけないという現実
- ・イタリア人やスペイン人は積極的に発言する
- ・討論に参加できない(言うことを考えているうちに話題が変わってしまう)。

→ 単に英語が話せるだけではだめだ。こういう人たち対等に交流できる強さが必要だ。

海外派遣研修(アメリカ:ウイスコンシン州:3か月)

- ・カリキュラムや授業方法(アクティブ・ラーニング)を学ぶ
- ・日本文化も紹介する
- ・4年生の教室で:掛け算が間違っている子に間違っていることを指摘すると、反論された

※世界の人たちは、自己主張が強い。英語が話せるだけでは、世界に通用しない。

世界の人たちと渡り合える人(21世紀人間)を育てる

☆21世紀人間:クリエイティブで世界的視野で、世界の人たちと論議できる人と定義づける。

そういう人を育てることができる教師になりたいと思う。

- ・今は、教室開きの日より、自分の経験を伝え、テクニックだけでなく、私たちが身に付けるべき力は何かを子どもたちに話し合せている。

「すごいなあと思う人は、テクニックだけではなく、それ以上にすごい力を持っているからすごいと思えるに違いない。その力ってどんな力だと思いますか？」

- ・藤原和博氏が唱える10年後、20年後に必要な力に共感する。

①コミュニケーション力、②プレゼンテーション力、③ロジックする力(筋道を立てて論理的に考える力)、④シミュレーションする力、⑤ロールプレイングする力

- ・今までの授業じゃダメだ。ラーニングピラミッド(受動から能動へ)を意識した授業づくりを心掛ける。(能動的であるほど学習したことの定着率が高まっていく)よりアクティブで能動的な授業をみ

んなでつくっていく、ことを子どもたちに伝えている。

2. 私のビジョン

(1) なぜ、21世紀人間を育てたいのか

- ・ 21世紀人間がたくさん育っていけば世界平和にたどりつくと思う。
(教育基本法にも記載されている)
- ・ 世界平和を求めていくような子にしたい。そのため、当事者意識を高めていく。社会の様々な事象が、自分とも関わっていると思える子になってほしい。



【このような子どもを育てたい】

- ・ 物事を俯瞰して見ることができる
- ・ 当事者意識を高い人
- ・ 多様な価値観を認める人
- ・ 討論できる人
- ・ 事実に依拠した自分の意見の形成ができる人
- ・ 合意形成できる人
- ・ 学びの出口が見える（見通しがもてる）人

(2) 授業実践から：6年生社会科「三人の武将と天下統一」

①ゴールを考える（つけたい力を明確にする）：

※クライマックスの場面で、子どもたちがどのような姿で取り組んでいけばいいのかをイメージする。

- ・ 戦国時代の基本的な知識を身に付けている
- ・ 資料をもとに根拠をもとに自分の意見が言える
- ・ 2つ以上の資料をつなげて活用できる
- ・ 1つの事象を様々な角度から見ることができる
- ・ 友達の考えを聞き合い、自分の意見を強くすることができる
- ・ 自分事として考え、自分の生き方と結び付けることができる
- ・ 探求することを楽しんでいる



②学習の流れ

「みつめる」長篠合戦図屏風から戦国時代の概観をつかませる

江戸図屏風との比較から学習問題をつくる（劇的に変わっている）

※学習課題：「なぜ、天下統一を成し遂げることができたのだろう」

「しらべる」三人の武将を調べる

お気に入りをもとに1人選んで「すごろく」を作る

その人への思い入れ、こだわりを持たせる その人の立場から他の人を見させるため

すごろくでの遊びを通して、3人の武将の業績の知識を得る

「ふかめる」3人の業績をカテゴライズした

武力だけではないことに気づかせるため（政治・経済・軍事など）

業績同士の関連に気づかせるため、3人のかかわりに着目させるため

※新たな学習課題「徳川家康はなぜ天下統一できたのだろうか」

「ひろげる」中学生とすごろく ほめてもらうことが意欲につながる

中学生は世界情勢に位置付けて戦国時代を学んでいるので、学びが広がる

③授業実践の振り返り

子どもの変容を把握する（ねり合い前と後のノートの記述の変化を比較）

社会科の授業づくりって「潮干狩り」みたいだな

漁協の人が貝をまいている（子どもにつかませたい事象をあらかじめまいている）

それによって子どもの意欲が高まる

たまに、教員がまいた貝じゃないものが見つかる時が、教員として一番うれしい

④日々の取り組みから：力をつけるための日々の積み重ね

【個を育てる】

(1) 社会科で毎時間振り返りをかかせる

- ・今日の授業でわかったこと、考えたこと、自分とのかかわりを書かせる
- ・よくかけているものは、みんなの前で読んだりする。
- ・社会科の見方・考え方を身に付けさせる

(2) 全教科で

- ・話し方（話型、身振りの大切さ、資料の提示のしかた）
- ・討論の機会をもつ（自分の考えを持つ、合意形成のしかた）

(3) 宿題で

- ・学習日記（毎日1授業）

自分が学んだこと、考えたこと、どのように活かしていくのかを書かせる

→ 話の聞き方が変わっていく（鵜呑みにするのではなく）

自分の生き方、考え方をつくっていく

【集団を育てる】

①子どもが生き生きと主体的に活動できる取り組みをたくさん持つ

イベントの企画をさせる

楽しい、企画力（発想、アイデア）、交渉術、見通す力（段取り力・危険予測）

役割分担・協力する力・・・21世紀人間に求められる力

誰かに楽しませてもらうのではなく、「自分から楽しみにいく楽しみを創る」

子どもたちの「やりたい」をつぶさないようにしたい、後押ししたい

お誕生日会、水鉄砲大会、ハロウィンパーティー、校内かくれんぼ、お化け屋敷、
クリスマスバトル、トミカーリング、最後の参観は「1年間の思い出劇」
学びに変えていく

努力家で学業優秀、協同的な学習は苦手 →他の子（男子）のよさを認め始める
仲間の中での自分の役割を考え始める
他の人の意見を受け入れることができるようになる

ちがいをもちあじとしてとらえる

最後までやりきること、表現することの

自分はどうかありたいのか、社会にどうかかわれるのかを考える

自分の言動が周り（社会）を動かす（変える）力を持っている

ガンジーの言葉 BE the change you want to see in the world.

（4）保護者とのかかわり

- ・子どもの後ろにはかならず保護者がいる
- ・子どもを良く育てたいという思いは教員と同じ
- ・でも、学校のことは見えないので不安
- ・情報をしっかり提供することがポイント

学級通信で伝える

直接会ったとき、電話したとき、その子が頑張っていることを伝える

うれしいことこそ電話で伝える

家庭とつながるツールとしての連絡帳 たまに子どもに手紙を書く

お休みのときはクラス全員で一人1枚のお手紙を書く・クラスに居場所があることが保護者の安心

「花には水を、人には声を」

後輩に送るメッセージ（連風作り）

29文字の後輩に伝えるメッセージを考えて空に

「まじめにふざけ、ゼロから創るおもしろさ それこそが21世紀人間」

◇これから教員をめざすみなさんへ

- ・ビジョンをもつこと 学び続ける教員に
- ・やりたいこと、困っていることはみんなの前の大声で言うてみる
- ・思い立ったらやってみる

BE the change you want to see in the world.

- ・自分の得意で勝負
- ・人の縁を大切に
- ・あなたが学びのお手本です

